

令和元年度 地域活動促進セミナー

11月16日（土）、植草学園大学客員教授の野澤和弘氏をお迎えして、パルセいいざか大会議室にて講演会を行いました。

「世界から見た日本の福祉のリアル～卒業後の就労そして子供たちと家族の未来に向けて～」と題した1時間半に及ぶ講演では、支援者の価値観のバイアスを変えること、子ども自身の意思決定の大切さなど、改めて考えさせられるお話ばかりでした。100名近い参加者からは、「自分自身のかかわりを振り返ることができた」「今後も継続して話が聞きたい」などの感想がありました。

実行委員会では、3年連続で福島の地においでいただいた野澤氏に感謝申し上げるとともに、今後も私たち関係者へ御指導いただけるようお願いしたいと思います。

<講演会の様子>



<参加者アンケートより>

野澤先生と息子さんのやりとりが自分のことのように感じました。息子の心の中を理解するのは難しいが、できる限りより沿って行けたらいいと思います。

(保護者)

自分のかかわりを振り返り、価値観を押しつけてきたのではと感じてしまう。先入観を持たないことに努力も必要だと思った。

(教員)

本人中心の意思決定、どう生きていくかをサポートしていく自分たちが、どういったことを大切にしていかなければならないかを考える機会をいただいた気がしました。

(教員)

創造性のある共に楽しめる生活者になりたいと思いました。

(一般)

とても身近に感じられる話だったので、とても参考になる事柄が多かった。

(関係機関)

福祉事業所での苦労、改めて知ることができました。二人の子ども、各事業所で活躍できるのもスタッフ、地域の方々の支援があることだと思いました。(保護者)

価値観のバイアスを考えていけるよう努力したいと思いました。ポジティブなアセスメントステキです。共に楽しみ豊かになれるように頑張ります。こうした時間が持てたことに感謝します。

(教員)

本人を中心に考えることの大切さを再確認しました。もっと周りから歩み寄ることで、結果として本人にその力が蓄えられると感じました。

(教員)

頑張る気持ちをいただきました。

(事業所支援員)

支援者の意識を変えていくこと、確かにそうだと思います。そんな世界にしていきたいです。

(関係機関)

障がいがある人の立場になって考えることの大切さを知ることができました。

(保護者)